

平成28年度 学校自己評価表（計画段階・**実施段階**）

68

福岡県立伝習館高等学校長 印

学校運営計画（4月）				評価（3月）		
学校運営方針		（教育目標）次代を担う人間として、自ら学び考える知性と規範意識・奉仕の精神を持つ心豊かな人間を育てるとともに、逞しい社会有為の人間を育成する。			A	
昨年度の成果と課題		重点目標	具体的目標			
<p>規律と品位を備えた伝習館生の育成については、大運動会や三稜祭（文化発表会）などの学校行事や卒業式などの式典においてめざましい成長を遂げたことが示された。高い志と学ぶ意欲については、大いに喚起することができた。その結果多くの生徒が国公立大学へ合格するなど、第一進路希望の実現も概ね達成することが出来た。また、白秋祭への参加、京町商店街に大運動会のパネル展示、柳河城の色づけ等地域に愛され信頼される学校作りに関して、十分な成果があった。</p>		<p>1 規律と品位を備えた伝習館生を育成する。 ・言葉遣い、皆勤、挨拶の励行、掃除の徹底、時間の厳守等基本の作法を確立する。 ・教科指導、特別活動、部活動をととして自主自立の精神を涵養する。 ・他人を思いやる心の教育をととして、いじめを行わない・いじめを見逃さない人物を育成する。 2 生徒の第一希望進路の実現を目指す。 ・高い志を持ち、学ぶ意欲を高めることにより、逞しい意志を喚起する。 ・授業への取組・自学自習をととして、確かな学力を身に付けさせ、生徒の第一希望進路の実現を目指す。 3 地域に愛され、誇りにされる学校作りを行う。 ・生徒に伝統校に学ぶ使命と誇りを持たせる。 ・地域から愛され信頼される、地域に根ざした学校作りを行う。</p>	<p>・言葉遣い、皆勤、挨拶の励行、清掃活動、端正な服装、時間厳守の指導等を徹底し「規律と品位」を高める。</p> <p>・予習復習を徹底し、家庭学習時間を確保する。</p> <p>・生徒の特性にあった高い志を持たせ、第一希望進路の実現を果たす。授業に対する真摯な取組の継続向上。進路実現に向けて逞しい精神の涵養。</p> <p>・規律と高い学力をつけ、奉仕活動に積極的に取り組み地域から信頼される学校作り。また、本校を目指す中学生に適確な情報の発信。</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
教務部	教務課	主体的、能動的な学びの推進などの方策により、生徒の学力向上を図る。	研修課と連携し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を推進する。	B	B	<p>・主体的、能動的な学びの推進などの方策により、生徒の学力向上を図る。</p> <p>・欠席が多い生徒の実態把握に努め、長欠生徒の減少を目指す。</p> <p>・電子黒板の導入や視聴覚室の完成に伴い、ICTの活用を推進する。</p>
			主体的、能動的な学習活動についての評価方法について研究を行う。	B		
			定数減による学習指導への影響が出ないようなクラス編成や教育課程の検討を行う。	A		
		欠席が多い生徒の実態把握に努め、長欠生徒の減少を目指す。	長欠生徒の個人カルテを作成し、長欠生徒の実態把握に努める。	A	A	
			学年・保健課・教育相談委員会等と連携し、長欠生徒の減少を目指す。	A		
			学年集会等で欠席することの不利益を訴え、出席率の向上を図る。	A		
	特別教室棟新築に伴う諸課題に対応する。	関係部署・関係教科と連携し、使いやすい特別教室棟ができるように取り組む。	B	B		
		コモンホール（仮称）の使い方を検討し、必要物品の準備を行う。	B			
		ICT機器の導入により、視聴覚室の充実を図る。	B			
	庶務広報課	伝習館高校の状況を生徒、保護者だけでなく、地域社会や中学生などにも的確に素早く伝える。	学校行事終了1週間後に、学校ホームページに記事を載せる。	B	A	
			学校案内を新たに配布する場所を探し、多くの人の目に触れるようにする。	A		
			学校案内の内容を、中学生目線からのものに書き換える。	A		
父母教師会、特に各種委員会活動が父母教師会主導で実行できるよう、学校側での協力体制を確立する。		学校側で、PTA行事の手順を明確にし、事前の打ち合わせをしておく。	A	A		
		学校行事との日程調整を事前に行い、協力しやすい体制を作る。	A			
		職員にPTA行事を周知徹底する。	A			
学校行事の円滑な実施のため、企画・運営を工夫する。		集団の中での望ましい行動の規範として、機能する学校行事を企画する。	A	B		
		式典や学校行事の記録、特に実施要項を確実に残し、次年度への改善ができやすいようにする。	B			
		行事において、責任者会議、係会議を行い、全体の意思疎通を徹底する。	B			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題		
教務部	研修課	職員の研修意欲の高揚を図り、資質の向上に繋がる職員研修を企画、推進する。	職員の資質向上や指導力の向上を図るための具体的なテーマを設定した職員研修会を実施する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」をキーワードに更なる授業改善を進めること、そのための研修機会(特に校外)を確保すること。 ・校内研修会の実施日、内容の検討・人権同和教育の教材、講演会の講師選定について 		
			アクティブ・ラーニングをキーワードに生徒の学ぶ意欲を喚起し、学力向上に繋がる授業研究会を企画する。	B				
			校外研修報告や研究発表などを含めて、職員の研修意欲の高揚につながる研究紀要の編集を行う。	B				
		種々の差別に対する認識を深め、心豊かな人間の育成に繋がる人権同和教育を推進する。	生徒の実態把握に努め、それに応じた指導案の検討・工夫を行う。	A	A			
			父母教師会との連携による人権・同和教育講演会を実施し、保護者を含めて人権意識の向上を図る。	A				
			特別支援教育の観点から、学校不応適や心理的葛藤を抱えた生徒への支援態勢を整える研修を実施する。	A				
		教育実習生の教職員としての自覚や意識の高揚を図るとともに、教育実習生の指導力の育成に繋がる教育実習を企画する。	教育実習生の教科指導力育成につながる講義や実習後の反省会を企画する。	B	A			
			教育実習生の教職員としての自覚を促し、生徒指導力の育成に繋がる教育実習を企画する。	A				
			実習生、大学側への連絡や報告文書の送付を遺漏なく行う。	A				
		進路指導課	高い志望を確立させ、社会に貢献できる有為な人材を育成する。	MTと連携して自己の適性を知り、将来の職業を含めた自己の進路を考えさせる。	A		B	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試改革の情報収集 ・模試の精選
				オープンキャンパスへの参加や進路講演会の実施をとおして、大学や入試の知識を身に付けさせ、難関大に挑戦する意欲を育てる。	B			
				生活記録や進路希望調査をもとに、担任による面談を実施し、進路相談に細かに応じられる体制をつくる。	B			
進路実現の過程をとおして、十分な学力と人間的な成長を促す。	生徒の実態に応じた課外及び伝習セミナーを実施し、夏季合宿勉強会（3年）の企画・内容に対しても積極的に支援する。			A	A			
	年2回の校内実力テスト(1,2年)、校内模試(3年)を実施し、学習到達度を確認する機会と位置づけ、生徒一人一人の進路指導に反映する。			A				
	公務員や就職希望者への指導体制を確立する。			B				
地域や保護者に本校の進路指導の取り組みや成果の情報を発信する。	生徒や保護者に有益な「進路の手引き」を作成する。		A	A				
	進路情報誌を精選して生徒に提供する。		A					
	地域や保護者、生徒のニーズに応じた様々な進路情報を積極的に発信する。		B					
進路指導部	企画調整課		中高連携を密にして、本校の教育活動についての理解を深め、本校の志望者の増加を図る。	進路学習では、自分の資質や適性を考察し、高い志に向けて努力する意欲ある生徒を育成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間での活動を充実させ、一層意欲的に取り組ませる。具体的には、各個人の進路実現に直結する内容を検討する。 	
				課題研究では世の中の論点を知り、自分なりの意見を持ち、問題解決のための活動を試みる。	A			
				各自の活動や意見を効果的に表現できる生徒を育成する。	A			
		総学において、各学年と連携し、進路学習と課題研究を中心とする取り組みを充実したものにする。	体験入学、中学校訪問、高校説明会等の効果的な実施方法を検討する。	A	A			
			本校の教育活動の内容やその魅力について、中学生や保護者に対し、効果的にPRを行う。	A				
			各種説明会において、本校の在校生や卒業生などの協力を依頼し、活用を図る。	B				
	誰でも本校の教育活動をより良く紹介できるよう、手段・方法を考案する。	進路学習では、自分の資質や適性を考察し、高い志に向けて努力する意欲ある生徒を育成する。	B	B				
		課題研究では世の中の論点を知り、自分なりの意見を持ち、問題解決のための活動を試みる。	B					
		各自の活動や意見を効果的に表現できる生徒を育成する。	A					
	図書課	読書活動を推進し、「自ら学び考える」学習態度を育成する。	「朝の読書」を実施することにより、本を読む機会を確保する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館移転にともなう作業を円滑に進めていく 1 書籍整理（廃棄含む） 2 移転計画、移転実施 3 移転後の館内整備など ・生徒の教育活動に寄与できる図書充実のための選書委員会の設置が必要である。 ・九州地区図書館研究大会における「読書指導」の発表をまとめる。 		
			クラス文庫を設置し、本を借りやすくする。	B				
			生徒の希望図書の充実を図る。	B				
図書委員会の活動を他の生徒に周知することにより、読書への関心を高める。		ビブリオバトル実施の広報を積極的に行い、本に対する興味を高める。	B	A				
		新着図書・推薦図書の紹介をし、読書に対する意欲向上に努める。	A					
		貸出状況を随時紹介することにより、利用を促す。	A					
図書館運営の効率化と図書館利用の活性化を図る。		図書館移動を見越して不必要な図書の選定を行う。	A	A				
		生徒が訪れやすい雰囲気を作り、学習の場としての環境も整える。	B					
		季節に合わせた展示やイベントを行う。	A					

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
生徒指導部	生徒指導課	「規律と品位」備えさせることにより規範意識の向上を図り、地域から信頼される生徒を育成する。	言葉遣い・挨拶の励行・時間厳守・端正な服装の徹底を図り、地域に信頼される生徒を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校をあげての挨拶指導 登下校中の交通マナー向上への取組 生徒会活動及び部活動の更なる活性化 	
			校則を明確に示し、全職員による一貫した指導を行うことにより規範意識を高め、問題行動を0件にする。	B			
			学校と家庭との指導の共通理解を図り、ブレのない一貫した指導体制の中で指導する。	A			
		自他の安全に対する意識を高め、生命を尊重する態度を育成する。	交通安全教育や登下校指導を通して、安全への意識の向上と、マナーの向上を図り、登下校中の事故発生を0件にする。	B	B		
			情報モラル教育を通して自他の気持ちを尊重する態度を育み、ネット上のいじめ問題等の発生件数を0件にする。	B			
			生徒会を中心とした生徒自らの安全に対する啓発活動を通して、危機管理に対する意識の向上を図る。	B			
		自らを律し、鍛錬し、愛校心を育むと共に、地域社会のリーダーとなる生徒を育成する。	学校行事や各種委員会活動の積極的な取り組みを通して、愛校心を育み、学校満足度100%を目指す。	A	A		
			地域社会の活性化に繋がる活動に積極的に参加することで、地域を大切に思う気持ちを育成する。	A			
			部活動の活性化を図り、対外と交流を図る中で規律の大切さを学び、自律した行動を促進する。	B			
	保健課	心身の健康保持・増進に積極的に取り組める生徒の育成に努める。	健康診断等を活用し、適切に指導することで、生徒自らが心身の健康管理に注意する態度を養う。	A	A		
			生徒保健委員会の活動を活性化し、充実を図る。	A			
			体育的な行事の際に校医による健康相談を実施し、事故防止に努める。	A			
		環境美化活動により学習環境を整える。また、清掃奉仕活動等により、勤労と奉仕の態度を養成する。	毎日の清掃活動の充実を図り、学習環境を「整美」する。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> 北棟完成に伴い、清掃区域の拡大や清掃方法の変化に対応する。
			ゴミの減量化を目指して、用紙の分別収集・再利用に取り組む。	B			
地域清掃ボランティア活動を年2回実施する。			B				
健康的で、逞しく生きる力を育成する。		保健室利用状況分析による、生徒の変化を早期に発見する。	A	A			
		学年・教育相談委員会・スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒の支援に努める。	A				
		健康教育推進事業（性と心の健康相談）の実施と効果的な活用を図る。	B				
第1学年	基本的生活習慣の確立	規範意識を持たせ、時間厳守、端正な服装・頭髪、挨拶の励行を指導する。	B	A			
		生活リズムを確立させ、出席皆勤を奨励する。	A				
		清掃を徹底させ、学習環境を整えさせる。	A				
	基礎学力の定着	初期指導を丁寧に行い、学習意欲高揚のための学年で統一した指導を行う。	B	B			
		丁寧な予習、授業での集中、復習の習慣づけを指導する。	B				
		課題提出を習慣化、期限の厳守を指導する。	A				
	進路意識の喚起	適切なガイダンス・講演会・資料を提供し進路決定の支援をする。	A	A			
		適性検査・定期考査・校外模試の結果を進路決定に活用させる。	A				
		個人面談・進路調査を計画的に実施する。	B				
第2学年	自主自立の精神の涵養	言葉遣い、挨拶の励行、時間厳守、掃除の徹底、礼儀などの指導を随時行う。	A	A			
		特別活動、部活動をとおして自主自立の精神を涵養し、1年生の手本となるような行動を心掛ける。	B				
		生活の記録、面談、学年での情報交換により生徒の状況把握に努め、指導助言を的確に行う。	A				
	学習意欲の向上と基礎学力の定着	週平均学習時間1日160分以上と欠席者1日学年平均1.0以下を達成する。	B	B			
		検定試験や学内外の研修会への積極的な取り組みを促す。	B				
		各教科の自宅学習課題や小テストなどの調整を図り、効率的に学力の定着を図る。	B				
	進路意識の高揚	事前準備を充実させ、修学旅行の企業訪問・オープンキャンパスへ積極的に取り組む。	A	A			
		課題研究の工夫（高大連携を含む）をし、事後報告を充実させ、学年で学びの共有を図る。	A				
		模擬試験で3教科平均の学年偏差値60以上を目指す。	B				
<ul style="list-style-type: none"> 進路実現を通しての人的な成長 自主自立の精神の涵養 6クラス体制での学年経営 							

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
第3学年	基本的生活習慣の確立	高校生活において欠席・遅刻をせず皆勤(100名)を目指させる。	A	A	A	・規範意識やマナーの向上の指導をさらに徹底する。
		個人面談を重視し、「不登校」の兆候を見逃さない早期の対応を図る。	A			
		規則の遵守はもとより、マナーを守り、「周囲への配慮」の精神を重んじさせる。	B			
	主体性と自律心を持った生活態度の育成	部活動や生徒会活動等への真剣かつ真摯な姿勢を後輩に示し、リーダーシップを発揮させる。	B	A		
		人間教育すなわち「自ら考え、自ら行動できる」生徒の育成を図る。	A			
		「総合的な学習の時間」において、進路実現のための更なる内容充実を図る。	A			
	高い志と人生観の育成	「行ける大学ではなく、行きたい大学」合格に向けてのひたむきな努力を学年団で全力支援する。	A	A		
		自宅学習の重要性を再確認させ、家庭学習時間平均240分を絶対目標とさせる。	A			
		国公立大学合格者120名以上を目標とする。	B			